



ほっこり…



No.14 2017.6.2
甲良町子育て支援センター
所長 大橋

6月に入りました。1年の折り返し地点ですね。ついこの前「あけましておめでとうございます」とご挨拶したと思ったのに…。時間ってあっという間に過ぎてしまいますね。こんなふうに、ママやパパ、おばあちゃんやおじいちゃんのお膝が大好きでべったり…という、家族も子どもも幸せな時期はあっという間です。「笑った!」「寝返りをした!」「ハイハイした!」「歩いた!」「あー、あーってしゃべったよ!」などなど、育っていく姿や愛らしい表情に思わず笑顔になる、そんな、そばにいられる時間を大切に、親子・家族でたっぷりじっくり楽しんでいただきたいと思います。

絵本ってすばらしい?!

最近ではテレビやDVDだけでなく、スマホなどでもお話しの世界が楽しめるアプリがあるようですが、何より子どもの成長にいいのは「絵本」だと思います。では、なぜ、「絵本」がいいのでしょうか?

○ テレビやアプリなどの映像は一人で見られるけれど、絵本は読んでくれる大人の存在があるということ。つまり、“おもしろいね”“楽しいね”“かわいそうだね”“(助かって)よかったね”と、心が動いたこと、思ったことを大好きな家族の人と共感できるということです。

「かわいそう」「よかった」「きれいだね」…など、心が豊かに育つだけでなく、それをまわりの人と共感し合う喜びを感じることができることは、これから先、大人になっていく中で人とつながり関わっていくために必要な原動力です。成長する上でとても大切な力が育つんですね!

○ テレビ・アプリなどの機械音ではなく、生のひと(しかも大好きな家族)の声は子どもたちにとって、とても落ち着くんです。

「テレビの中の“ひと”がしゃべってるから同じじゃないの?」と言われるかもしれませんが、映像の声は、話している人の声を機械を通して類似した音に再生しているため“生の声”ではないんですね。それが大好きな身近な人の声だと心地よく、子どもたちは安心してお話の世界を楽しみます。

さらに、お膝に座ったり体が触れ合う中で読んでもらったり、読んでくれるお母さんや身近な大人の人の息遣いまで聞こえて、見た目が安心していただけでなく、子どもたちの体の中では「セロトニン」という安心のホルモンがいっぱい出ているんですね。

この「セロトニン」というホルモンは、「幸せのホルモン」と言われるように、心が安定し、穏やかになるだけでなく、「前頭葉」(脳の中で、人間性をつかさどる大切な部分)で大きな働きをもつとても重要な物質だそうです。

つまり…大好きな大人(家族)の息遣いを感じながら絵本を読んでもらうことは、ことばや物事を知るだけでなく、心が安定し、穏やかな気持ちになること、さらには人として意欲的に物事に取り組んだり、衝動的に行動することなく理性をもって生活する力を育てることにつながっているってことなんですね!

やっぱり、絵本って、子どもたちの育ちにとっても大切なんですね!!